

自慢の武豊人を紹介します！

「球児たちの熱き戦いをジャッジ」

全国高等学校野球選手権 愛知大会決勝 球審

ばん どう ひろし

坂東浩さん

7月30日(木)、パロマ瑞穂野球場(名古屋市)で、高校野球の愛知大会決勝が行われました。

甲子園出場をかけた大一番、愛知県が誇る強豪校「愛工大名電」対「中京大中京」。この試合の栄えある球審を務めたのが、武豊町在住の坂東浩さん。試合中のエピソードやこぼれ話をうかがいました。



-プロフィール-

昭和43年9月4日、武豊町生まれ。日油株式会社入社後、審判となり、技術を学ぶ。愛知大会をはじめ、多くの試合で審判を務める。聖地・甲子園で行われた第95回選抜高等学校野球大会で、3試合塁審を務めた。

決勝の球審に決まったとき

愛知大会の準々決勝以降は、県内5地区から派遣される約15人の審判が行います。決勝の球審に決定したときは、最初は不安でしたが、次第にやってやろう！という気持ちが大きくなりました。

心がけていること

普段通りに行くことです。決勝はテレビ中継が行われ、この日も観客数が1万人を超えるなど、注目される一戦でした。大舞台ほど上手くやるうと思わず、いつも通りに行くことを心がけています。

決勝戦を終えて

ホッとしました。選手にとっては、勝つか負けるかで天と地の差がある大事な一戦です。プレッシャーもありましたが、ケガなく、無事に終われて良かったです。

甲子園での経験

高校時代は、夢の場所であつた聖地・甲子園。審判としてですが、その地に立てたことは忘れられない思い出です。ただ、審判として行くことは、甲子園でも地方球場でも変わりないことも学べました。

今後について

私が審判として活動している理由の一つが、お世話になつた高校野球への恩返しです。自分自身、まだまだ審判として未熟であります。さらなる技術向上に努めていきたいです。

また、若手審判の育成にも関わり、今後の高校野球の発展に微力ながらも、貢献していきたいと思っています。

